

令和7年度柴田町議会

3月会議

# 施政方針

令和8年3月

柴田町

# 目 次

I	はじめに-----	3
II	令和8年度予算の概要-----	4
III	主な施策の概要-----	6
1	コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造の形成-----	7
2	安全で安心なセーフティネットの構築-----	8
3	子ども達の成長と学びを支えるまちづくり-----	9
4	地域資源を活用した稼ぐ力の醸成-----	10
5	デジタル化による自治体イノベーションの推進-----	12
IV	おわりに-----	12

本日、ここに令和7年度柴田町議会3月会議が開会され、令和8年度一般会計予算を始めとする関係諸議案をご審議いただくに当たり、私の町政に対する基本方針と概要を申し述べ、議員各位及び町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## I はじめに

今年、柴田町は昭和31年に槻木町と船岡町が合併してから70年目の節目の年を迎えます。昭和31年の『経済白書』では「もはや戦後ではない」とされ、日本経済が戦後復興から高度経済成長へ転換した年でもありました。その後わが国は、全国総合開発計画に基づき、東京一極集中の是正や国土の均衡ある発展を目指し、工場の地方分散、港湾や新幹線、高速道路などの社会インフラ整備を進めた結果、経済は飛躍的に拡大し、一時は「ジャパンアズナンバーワン」と世界に誇れる経済成長をとげました。

しかし、1990年初頭のバブル経済崩壊以降、いわゆる「失われた30年」と呼ばれる長期にわたる経済停滞が続き、さらに、2008年の人口約1億2,808万人をピークに人口が減少し続けていることが、経済の低迷にいつそう拍車をかけています。その影響は、今やさまざまな分野で顕著になっています。

こうした課題に対し、経済規模をさらに拡大していく中で、生活の豊かさを追い求める経済成長戦略として、アベノミクスや異次元の金融緩和、地方創生戦略が推進されました。

その結果、便利な生活やモノの豊かさは手に入れられたものの、反面、その副作用によって日本経済の地盤沈下や70万人を割り込む出生率<sup>しゅっしょうりつ</sup>、所得間格差による分断と差別、さらに人間関係の希薄化や閉塞感から、若者にとって生きづらい世の中となっています。

一方で、日進月歩で生み出される新技術やデジタル技術の普及によって、企業経営のあり方や社会の仕組み、ライフスタイルが大きく変わろうとしています。

柴田町もこれまで、工場や大学の立地、道路や公園、上下水道、学校や文化施設など、社会インフラの整備によって着実な発展を遂げてきました。しかし近年では、人口減少や高齢化の波が押し寄せ、経済面では需要の減少や労働力

不足が深刻化し、社会面では核家族化の進展に伴う一人暮らし・二人暮らし世帯の増加やコミュニティの衰退により、老々介護、孤独死、空き家や空き地、買い物難民の発生などが大きな行政課題となっています。仙南広域圏においても、病院や第三セクター鉄道の経営悪化といった厳しい局面に直面しています。

こうした課題に向き合う中で、最後のセーフティネットとしての役割を担うのが行政でありますので、その業務量はますます増え続けるばかりです。しかし、残念ながら公務員のなり手不足は深刻で、特に技術職の人材確保が困難になっています。加えて、少子高齢化に伴い、社会保障給付費も膨張を続け、財政状況は年々硬直化するなど、柴田町の町政運営は、厳しさを増すばかりです。

このように、わが国の経済社会や地域社会においては、明と暗が混在し、将来の予測が困難な時代を迎えております。まさに、私達は今、歴史的な転換点に立ち、今後、未来に向けてどのような社会を築いていくのか、未来の社会ビジョンを明確にしていかなければなりません。

未来の社会ビジョンを描く<sup>えが</sup>に当たって考慮しなければならないことは、地球温暖化によって環境の悪化が深刻化し、また、限りある資源の争奪が経済的なリスクを招き、さらに、人口が半減する社会の流れの中では、もはや大量の資源やエネルギーを使い、モノを生産し消費することや都市を大きくすることでスケールメリットを働かせ、生活の豊かさや経済の発展を追い求めていくことは困難になっています。人口の減少や都市の発展、地域の発展を、その量的な回復をもって達成しようとするアプローチには、もはや限界が見えています。

柴田町は、人口減少が進む中で起きている人生に対する考え方や働き方、ライフスタイルに対する価値観の変化をしっかりと受け止め、多様化する住民ニーズに的確に応えられる持続可能な自治体を目指すアプローチを選択してまいります。

柴田町が誕生して70年目の節目に当たる今年は、これまでの政策や事業を点検し、柴田町の特色を生かした持続可能な発展戦略を展開してまいります。

## II 令和8年度予算の概要

国が示した令和8年度地方財政対策では、近年の物価高騰のみならず、社会保障費や人事院勧告を見越した人件費の増、教育無償化に係る地方の負担増

を見込んだ一般財源総額は、前年度比3兆7,364億円増の6兆7兆5,078億円が確保されました。

地方交付税も前年度を上回る規模となっており、1兆2,274億円増の2兆0兆1,848億円となっております。

そのような中、本町の令和8年度一般会計当初予算は、過去最大規模となった令和7年度を大幅に上回る10.7%増の160億87万5千円となりました。

歳入では、基幹財源である町税が、前年度から3.3%、1億4,886万円増の46億385万円を見込んでおります。地方交付税についても8.5%、2億6,950万円増の34億3,060万円としました。

国庫支出金については、現在進めている大型プロジェクトである都市構造再編集集中支援事業や地域未来交付金事業に係る収入を計上しております。

町債では、前年度に引き続き、臨時財政対策債はゼロとしましたが、先述の大型プロジェクトや自然災害対策等に係る建設事業に地方債を充てたことから、前年度に比べ115%、4億8,670万円増の9億980万円となっております。

また、歳出については、物価や人件費の上昇を予算に反映したほか、船岡城址公園スロープカーの整備や新図書館整備、地域交流センター整備等の都市構造再編集集中支援事業及び地域未来交付金事業を着実に進めるための経費や自然災害に対応するためのインフラ整備事業を土木費に計上したことから、前年度と比べ、6億6,230万円と大幅に増加しております。

そのほか、令和8年度の組織改編により、町教育委員会の「生涯学習課」と「スポーツ振興課」を統合し、新たに「スポーツ文化振興課」として社会教育分野における「生涯学習」、「文化振興」、「スポーツ振興」の連携強化を図ることとしましたので、教育費における社会教育費及び保健体育費において、予算科目の体系を変更しております。

歳出予算を性質別に見ていくと、義務的経費と言われる人件費、社会保障費などの扶助費、公債費の合計は、約70億2,900万円と予算全体の43.9%となりました。令和7年度と比べると、予算全体の構成比では1.8ポイント低下していますが、金額としては約4億3,100万円増加しております。

また、投資的経費においては、普通建設事業費が前年度に比べ約6億9,000

万円の増となっております。

このように投資的な事業にも積極的な予算編成としたことから、その財源として、財政調整基金から約6億1,200万円を、また、児童福祉や教育、町民の生活に密着する事業を中心に、ふるさと柴田応援基金を約3億4,700万円、それぞれ充当しております。

結果として、一般会計と3つの特別会計、水道事業会計及び下水道事業会計を合わせた予算規模は、前年度と比べ14億8,110万9千円増の265億5,553万8千円となりました。

人件費と扶助費については、年々増加傾向が続いており、公債費についても長期金利が上昇傾向にあることから、予算編成においては、町債発行額が元金償還額を超えないよう努めました。

将来にわたり持続可能な行政サービスが提供できるよう、今後も不断に行財政の適正化を徹底してまいります。

### Ⅲ 主な施策の概要

令和8年度においては、「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」の実現を目指し策定した「第6次柴田町総合計画」が最終年度を迎えます。今回、柴田町が将来にわたり持続可能で魅力的な町であり続けるための羅針盤として「第7次柴田町総合計画」を策定します。

「第7次柴田町総合計画」の策定に当たっては、今後、将来の人口が半減するという厳しい現実を直視した上で、柴田町を持続可能な発展軌道に乗せていくために「量の経済から質の経済」へ、「都市の規模拡大からコンパクトシティ」へ転換する、いわゆる「シュリンク政策」を基本に据えて、町政運営を行ってまいります。

創造的なシュリンク政策を通じて、柴田町の人口減少のカーブを少しでもなだらかにできるよう、5つの政策目標を掲げ、新たな発想やアイデア、財源の確保等に創意工夫を凝らしながら、その実現に向けて取り組んでまいります。

今回は、特に主要な事業を中心に、施政方針を述べさせていただきます。

## 1 一つ目の目標は、「コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造の形成」です。

柴田町の都市像としては、船岡地区、船迫地区、槻木地区、船岡新栄及び大沼通り周辺の4つのエリアを核として、周辺農村部とをシームレスなネットワークで結ぶ、コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造の形成を目指してまいります。

その骨格となる集落間を結ぶ幹線道路の整備として、槻木市街地東部の主要地方道「亙理村田蔵王線」から岩沼市を結ぶアクセス道路の強化及び通学路の安全確保を図るために、町道四日市場1号線ほか2路線の道路改良事業を行います。

船岡地区においては、都市計画マスタープラン・立地適正化計画に基づき、都市計画道路（新栄通線）の延伸に向けた基礎調査に取り組みます。

また、快適な生活環境の整備として、船岡字東神山前地区、槻木西一丁目地区、船岡中央二丁目地区の側溝整備及び上川名地区や船岡字八入地区等における路線の舗装工事、農道中名生16号線の用地測量等に取り組みます。

次に、水道事業の老朽管対策として、西船迫四丁目地区に加え、新たに船岡字八入地区、船岡土手内二丁目地区の配水管布設替え工事を行います。また、役場庁舎南側の車庫跡に建設する「柴田町水道お客様センター」に係る工事設計委託を行います。下水道事業においては、未普及対策として、下名生字剣水地区や船岡字新田地区に加え、上名生字下新田地区の污水管渠整備工事を行います。

さらに、人口減少や居住者の高齢化により、増加する空き家・空き地問題の解消を図るため、空家等対策計画の策定準備を進めてまいります。

魅力的な公園づくりとしては、都市構造再編集中支援事業や地域未来交付金事業を活用し、船岡城址公園の麓<sup>ふもと</sup>にウォークアブルな空間やみんなの広場の整備を進めるとともに、三名生公園への遊具の設置や清住1号公園に時計を設置します。

また、公園施設長寿命化計画に基づき、西船迫5号公園、西船迫6号公園、土手内1号公園、槻木駅西3号公園、白幡公園などにおいて、遊具や施設の更新工事を実施し、公園の長寿命化に取り組みます。

## 2 二つ目の目標は、「安全で安心なセーフティネットの構築」です。

近年は、気候変動により、自然災害への脅威やパンデミック等の感染リスクが高まり、また、急速なデジタル化の進展による社会の変化や経済格差の拡大によって、社会的リスクが高まっています。

こうした状況を踏まえ、まず、大雨時の局地冠水対策として、排水能力の向上及び内水による浸水被害の軽減を図るため、船岡字大住町・並松地区における排水ポンプ施設の改修及び槻木上町地区における水路改修工事、また、大雨時における堤防からの越水防止を図るための槻木五間堀の堤防嵩上げ工事に取り組みます。

さらに、水路や河川の水位の上昇を検知し、水害対策の迅速化や浸水被害の軽減を図るために、浸水センサーの設置や白石川との兼用堤けんようていとなっている町道船岡土手内41号線の舗装工事を実施し、堤防の強化に取り組みます。

次に、町内で発生する大規模な災害への備えについては、引き続き、備蓄品及び非常食の計画的な拡充を行うこととし、令和8年度に完成予定の「(仮称)地域防災センター」や「柴田町総合体育館」を中心に、一部の拠点が被災しても他の拠点から物資が融通できる「分散備蓄型の体制」を構築します。加えて、地域防災の要である消防団の体制強化を目的に、消火活動用防火衣ぼうかいを複数年かけて配備するほか、水害時に現場で活動する町職員についても救命胴衣を配備します。

また、赤ちゃんからお年寄りまでが、毎日を生き生きと元気に暮らしていけるようにするための取り組みとして、令和8年度から母子免疫ワクチンであるRSウイルスワクチンが、妊娠28週から37週までの妊婦を対象に定期接種化されることから、柴田町においても実施します。

さらに、出産後から切れ目のない健康診査の実施体制を整備するため、疾病しつぺいや異常の早期発見を目的とした、1か月児健康診査の費用を助成し、乳児の健康の保持及び増進を図ります。

インフルエンザ任意予防接種については、これまで受験を控える中学校3年生を対象に助成をしてきました。近年、乳幼児への対象年齢拡大を望む声が数多く聞かれていましたので、乳幼児のインフルエンザの流行を最小限に抑え、重症化を予防するため、生後6か月から未就学児までに一部助成の対象を拡大します。

また、むし歯予防を推進するため、現在、槻木保育所と船岡保育所で、4歳児・5歳児の希望者に行っている「フッ化物洗口事業」については、新たに西船迫保育所においても実施します。

次に、高齢者等に対しては、高齢者の心身の多様な健康課題の解決や健康保持・増進を図るため、地域包括支援センター等の介護や保健関係機関が連携し、健康寿命の延伸に向けたフレイル予防に関する健康教育や医療・検診受診勧奨等を一体的に実施します。

また、60歳と65歳の町民を対象に実施してきた、胃内視鏡検診の対象年齢を、令和8年度においては、50歳から69歳までの町民に拡大します。

社会福祉の推進につきましては、令和8年度に3年目となる「第2期柴田町地域福祉計画」に基づき、地域共生社会の実現に向けて、柴田町社会福祉協議会をはじめ、地域住民及び関係機関等と連携、協力し、物価高騰などの影響によって生活が困窮する家庭との相談や就労が困難な方への支援、さらに、成年後見制度を適切に利用できる支援体制の構築と、権利擁護支援のための地域連携ネットワークづくりに取り組んでまいります。

障害福祉の推進につきましては、令和9年度からの「第4次障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」を策定し、障害福祉のさらなる推進を図ります。

高齢者福祉の推進につきましては、令和9年度からの「柴田町高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」を策定し、地域包括ケアシステムの深化と介護サービスの充実をさらに進めてまいります。

### 3 三つ目の目標は、「子ども達の成長と学びを支えるまちづくり」です。

まず、子ども子育て支援として、保育所に入所していない0歳6か月から満3歳未満までの子どもを対象に、保護者の就労条件を問わず、一定時間の利用可能な枠の中で保育所等の施設を利用できる「乳児等通園支援事業（通称“こども誰でも通園制度”）」を実施します。

また、槻木保育所の民営化については、令和7年度中に保育所を設置・運営する事業者を選定し、令和8年度には選定した事業者との間で、令和10年4月1日の開園に向けた、私立保育園の整備内容や槻木保育所からの保育の引継ぎ

について協議を進めます。

教育関連では、かねてより保護者から要望をいただいておりますが小学校学校給食費の無償化につきましては、国からの無償化に対する交付金を活用しながら、不足する分については町が負担し、完全無償化を実施します。

学校施設の整備については、猛暑から生徒の健康を守り、また、避難所機能を強化するため、中学校体育館への本格的な空調機設置に向けた実施設計を行います。これにより、平常時は快適な中で教育活動が行え、災害時には安心して過ごせる避難所となるよう、順次整備してまいります。

次に、スポーツを通じた生徒の健やかな成長を支えるため、船迫中学校テニスコートの修繕を行います。生徒達が安全かつ快適な環境で部活動に打ち込めるよう、施設環境の向上を図ってまいります。

さらに、学びを支える教育環境の充実についてです。教員の働き方改革の一環として、町内3つの中学校に「自動採点システム」を導入します。これにより、校務負担を軽減し生徒と向き合う時間を創出するとともに、テスト結果のデータを分析し、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導に繋げてまいります。

生涯学習やスポーツ及び文化活動の推進においては、国のスポーツ基本計画等を参考に、今後10年間のスポーツ政策の目指すべき方向性や主な施策等、新たなスポーツ振興に向けた「柴田町スポーツ推進計画」を策定します。計画には、総合体育館指定管理者や柴田町総合型地域スポーツクラブ及び仙台大学等と連携し、気軽にスポーツを親しみ、健康づくりや仲間づくりを通じ、将来にわたり子ども達の発育・発達段階に応じて、継続的に多様なスポーツに親しむことができる機会の確保を盛り込みます。

中学校の部活動における地域展開については、教育的意義の継承や地域全体で子ども達のスポーツ・文化芸術活動が持続可能となる仕組みづくりを構築するとともに、自主的な活動が可能となるよう支援してまいります。

#### 4 四つ目の目標は、「地域資源を活用した稼ぐ力の醸成」です。

人口が減る中においてもまち中に活気を生み出していくためには、誰もが気兼ねなく集まり、交流できる空間をつくり、交流人口や関係人口の拡大を図ることが重要となってきます。人と人との出会いや交流、情報交換ができる賑わい

あふれる拠点を整備し、新たな柴田町の魅力や付加価値、ビジネスの創出につなげてまいります。

そのリーディングプロジェクトとして、船岡城址公園としばたの郷土館エリアを1つの一体的なエリアとし、豊かな自然や歴史、文化を活かした賑わいづくりの拠点となるよう、リノベーションを本格化させます。

令和8年度においては、賑わい交流拠点の核となる新図書館建設工事の本格化、みんなの広場の完成、如心庵の改修に向けた調査等を行い、「(仮称) まちなか交流センター」の整備事業に着手します。

昨年、有名な若手女優が出演したアルコール飲料のCMによって、全国的に知名度が高まった船岡城址公園においては、新スロープカーの年度内完成に併せて、観光物産交流館さくらの里前駐車場の整備に着手するとともに、多言語マップ、外国語表記の案内板の設置、また、しばた桜まつりにおいて、玄関口となる船岡駅に観光交流センター機能を整備し、インバウンド客など国内外からの観光客の受け入れ体制を強化します。

こうした観光施設を充実させ、柴田町らしい景観、歴史、文化、グルメ等の体験や、住民等と交流するイベント等の観光コンテンツを充実させることで、観光地としての魅力をさらに向上させてまいります。

今後、このエリア内への更なる集客力を高めるために、各施設の運営のあり方やイベント等を企画・検討する、住民や活動団体、事業者や行政をメンバーとした「(仮称) エリアマネジメント協議会」を組織する準備を進めてまいります。

こうした、新たなエリアの魅力を国内外にアピールするために、みやぎ蔵王ハーモニー花回廊推進協議会と連携し、広域的な観光振興を強化します。

次に、柴田町ならではの農作物や農産加工品の生産、また、緑豊かな景観や田園風景、里地里山を保全していくためにも、持続可能な農業農村の振興に力を入れてまいります。

農業農村の展開としては、引き続き、スマート農業を推進するため、地域農業の担い手となる農業法人や認定農業者等が導入するトラクター、田植え機、コンバイン、ドローン、後付け自動操舵システムへの支援を強化するとともに、デジタル技術の導入を促し、農作業の効率化や省力化、生産性の向上を図ります。

平成25年度から開始したほ場整備事業は、現在6地区が事業採択され、水田

の大区画化や農道、用排水路等の整備を進めております。今後は、担い手に農地を集積・集約するとともに、高収益作物の導入を図り、稼ぐ力を強化します。

## 5 五つ目の目標は、「デジタル化による自治体イノベーションの推進」です。

増え続ける自治体の業務量の効率化や適正化を図るため、自治体の ディーエックス D X 戦略を推進します。行政サービスのデジタル化の一環として、マイナポータルを入口にオンライン申請の対象拡大を進めます。

具体的には、申請手続き等をオンラインで行うことができるようにするなど、住民が「役場に行かなくても行政サービスが受けられる」ことを実感できるようにします。

次に、限られた職員と予算で多様な課題に対応し、行政サービスの維持向上を図るため、行政サービスの棚卸しを行い、デジタル技術を活用した事務作業の効率化や補助金の適正化、職員の働き方改革を進めます。

昨年策定した「デジタル化を見据えた行財政適正化推進計画」を着実に実施し、計画に盛り込んだ「10分野92項目」の実施状況を毎年度評価し、業務の適正化を図ります。

## IV おわりに

柴田町は現在、未来に向け自立的な発展が可能となるような自治体を目指し、行政組織を機動的、効率的、効果的に動かすために、3つのモットーを掲げ推進しています。

1つに、「政策は予算なり」の徹底です。町民の皆様が喜ぶような政策や行政サービスを打ち出そうとしても、財源が無ければ絵空事にしかなりません。税金は増えてはいるものの、社会保障費がそれ以上に上回る現在の財政構造の下では、柴田町の一般財源だけで新しい公共事業への着手や住民サービスの提供を行うことは困難となっています。

公債費の償還額が約15億円台となっている令和11年度までは耐える時間帯が続きます。町としては、今後も税金を伸ばす努力をしながらも、一方で、国や県の補助金の確保や有利な地方債の活用、ふるさと納税寄附金の増収、さらに、公共施設等総合管理計画に基づいた公共施設の統廃合を通じて、遊休地

や類似施設の民間への売却や貸与を進め、財源の確保に努めてまいります。

2つに、「海老で鯛を釣りあげる政策」を徹底します。国や県が新しく展開する政策をこれまで以上にアンテナを高くし、いち早くキャッチするとともに、国や県が目指す政策や事業の成功モデルとなるような町独自の政策提案を行い、町の少額な一般財源で大きな事業予算を獲得し、事業を展開してまいります。

3つに、「行き過ぎた経済成長モデルからウェルビーイングな社会への転換」です。より大きな規模の経済や都市の拡大といったスケールメリットを追求する拡大主義は、資源の制約や人手不足、過当競争によって限界が来ております。今後は、人口が半減する時代に合わせて、無理な成長を求めず、柴田町に住んでいる一人一人の生活の質を高め、幸せを実感できるウェルビーイングな社会の実現、また、町全体をコンパクトにし、エリアマネジメントへの取組みやサードプレイスの整備によって、交流人口、関係人口を拡大し、賑わいをつくり出していく戦略で、柴田町の未来を切り拓いてまいります。

まちづくりは行政だけでできるものではありません。住民や企業、事業者、そして行政が一体となって、目指すべき柴田町の将来像を共有しながら、コンパクトでキラリと光るアグレッシブなまちづくりを今後も展開してまいります。

今年は、<sup>ひのえうま</sup>丙午の年です。火と火が重なりエネルギーに満ち溢れた年になると言われています。私としては、<sup>ひのえうま</sup>丙午の年に相応しく、<sup>ふさわ</sup>町制施行70周年の節目の年を盛大に祝いたいと思っております。

改めて、新たな情熱をたぎらせ、果敢に行動し、未来を拓くリーディングプロジェクトを責任を持って着実に前に進め、柴田町を元気にしてまいります。